

地域情報の発信

北陸支部長 内山 登



北陸地方は全国と比較すると面積、人口、総生産額等、おおよそのものが2.5～3.5%程度の規模であるが、最近示された生活面における豊かさ総合指数では石川、富山、福井の北陸3県が上位を占めている。この指数は住むこと、働くこと、自由時間があること等を中心にランキングされているようであり、大都会における住宅・土地問題や通勤時間等を考えれば頷けない話でもない。

一方、産業面では発展途上国の追い上げにより地域経済の主導的役割が相対的に後退しつつあると共に、主要な米の生産も世界の農業問題の中で厳しい環境にあると指摘されている。

このような環境下において、北陸自動車道、航空路線および鉄道網など交通基盤の整備や、インフラとしての電気通信ネットワークも、デジタル化の推進、ISDNへの対応等に向け着実に整備されつつある。

最近の「通信白書」によれば、北陸地域から発信される情報量は東京の1/10以下、全国平均の半分以下であり、また、他地域から北陸へ供給される情報量も東京の半分程度であり、全国平均を下回るものとなっている。

こうしてみると、北陸は生活面には充足感があるものの、産業活動や情報量等において格差がある地域と映る面もあるが、現地から見ると結構活発な活動が展開され、将来の情報発信地として成長しつつある。

つい先ごろも「環日本海情報通信シンポジウム」が金沢で開催され、ロシア、中国、韓国等の日本海を取り巻く北東アジア諸国における文化、芸術、経済分野での交流など、新たな「環日本海時代」について熱心な討論が行われた。

また「石川サイエンスパーク構想」の一環として、情報、新素材およびバイオ等の先端科学技術分野において、今年4月より「北陸先端科学技術大学院大学」が開校するなど、全国的な規模での創造性ある人材の育成を目的とする新たな学術都市の誕生に、今後の期待が寄せられている。

現在、北陸支部の会員数は全国の約1.5%程度であり、冒頭の全国比から見ればもう少し会員が多くとも思うところであるが、単に会員数のみならず活動の質の充実について、産・学・官の連携のもと、今後の情報発信基地として、地域の特色をいかした学術研究などの発展とそれを支える支部活動は何かについても考えていきたいと思っている。